

学校プロジェクト報告書（2年目）

学校名	早通小学校
校長氏名	岡田義則

1 学校紹介

昨年度 150 周年の節目の年を迎え、持続可能な社会の創造を目指して昨年度から深化した取組を継続している。1つは地域合同防災訓練の充実。子どもたち自身がジュニアレスキューとして機能するように消火器や伝言ダイヤルが使えるようになった。もう1つは地域企業・高齢者住宅と協働して花のしおりを作り地域の人に配布するプロジェクト。地域に愛させる学校づくりを目指している。

2 実践テーマ

＜テーマ＞特別支援学級の児童が主体的に活動する教育課程の開発 ～ 交流学习と両立する生活単元学習・自立活動の在り方について ～
--

テーマ設定の理由

特別支援級における「生活単元学習」や「自立活動」の充実を通して、個に応じた教育課程の在り方を探る。交流学級と特別支援学級という双方の学びの場での学習を生かしながら児童が見通しをもって、より主体的に学ぶことができるような学習活動の開発を行う。

3 実践内容

2年目は「自立活動」の実践を蓄積した。個別の教育支援計画に基づき、一人一人に身に付けた力を保護者と確認する。同学年で学びを大切に、特別支援学級の知的障がい学級と自閉症・情緒障がい学級の合同授業の形態をとる。活動は同じだが、知的障がい学級の児童には生活単元のねらいを、自閉症・情緒障がい学級の児童には自立活動のねらいを設定し実践を行った。

「自立活動」では、途中であきらめてしまう児童や不適切な発言をしてしまう児童に対する合同の活動を通して、適切なコミュニケーションスキルとセルフコントロールスキルを身に付ける取組を行った。

4 成果と課題

以下に題材名「作って遊ぼう～スマイルジャンボすごろく」の実践について述べる。

知的障がい学級の児童5名と自閉症・情緒障がい学級5名。人を駒に見立てたすごろくの活動を設定した。マス目には、決まった数字が出ないと動けないマスやじゃんけんに勝たないと動けないマス等を設定した。止まったマスの指示については子どもが考えたものを採用した。題材の構成は以下のとおりである。

1次 すごろくで遊ぶ。

2次 おもしろいすごろくみんなであそぼう

遊びの中で、途中であきらめたり、不適切な発言をしたりする姿があった。楽しくみんなでやろうという活動全体のめあてを立てることによって子ども同士で励ましたり、注意したりする姿が見られるようになった。

3次 招待をしてみんなで遊ぼう

人を招くということで、より楽しんでもらいたいという気持ちが高まり、上手にコミュニケーションをしようとしていたり、不適切な発言はしないようにより「良い言葉」をつかうようになっていたりする姿が見られた。

上記のような合同の活動をすることによって、同年代の子ども同士が言葉掛けや互いの手本となる事ができ、生活単元学習の全体としての目標と自立活動の個の目標を達成することができた。

ただし、実践の中で、児童一人一人の自立活動の課題を把握していることが前提となり、児童の望ましい行動が見られた時にすかさず称賛する支援が鍵となる。また、子ども同士のかかわりをつなぐ教師の働き掛けについて支援として構想する必要がある。